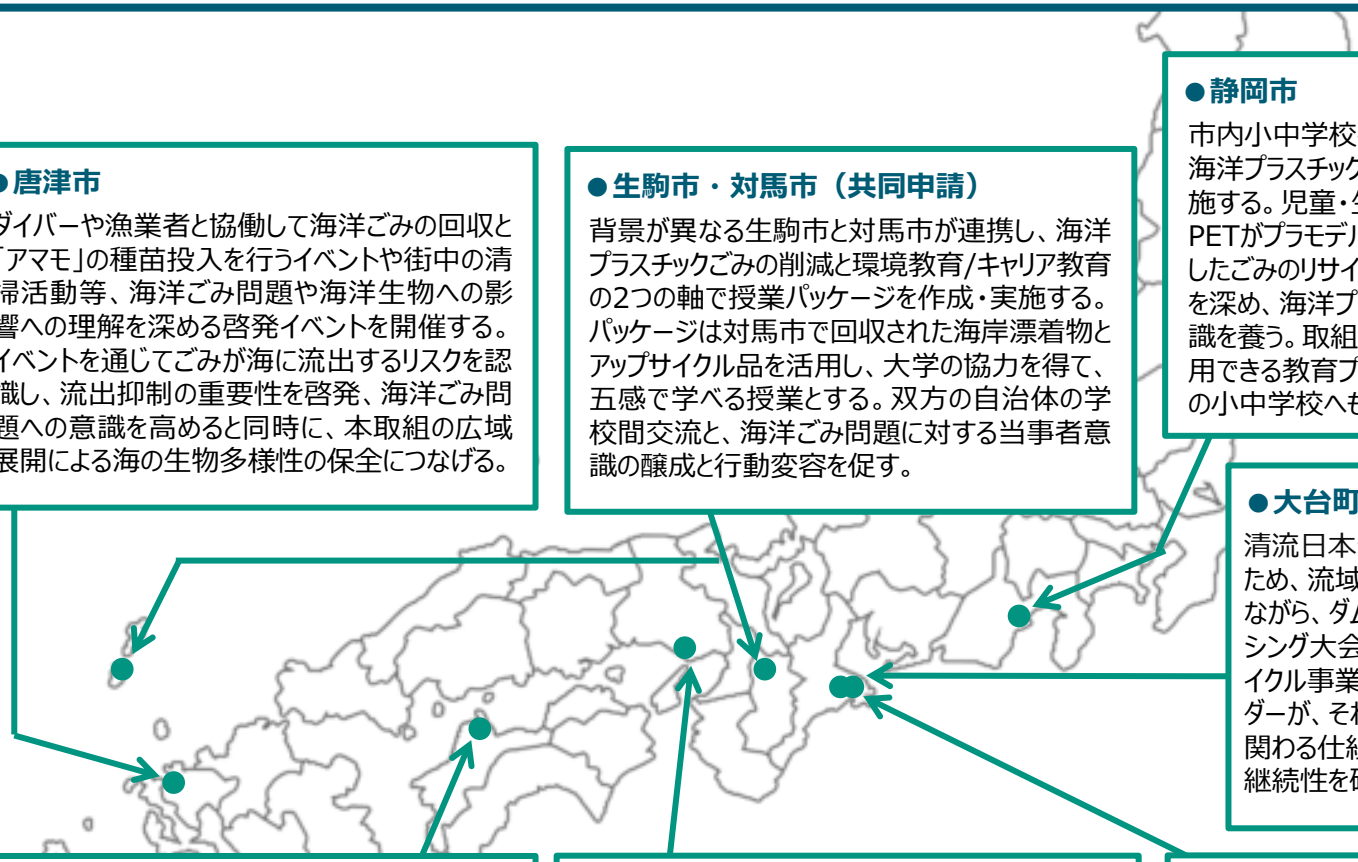
令和6年度ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業

各自治体の取組概要

令和６年度ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業実施自治体



●唐津市

ダイバーや漁業者と協働して海洋ごみの回収と「アマモ」の種苗投入を行うイベントや街中の清掃活動等、海洋ごみ問題や海洋生物への影響への理解を深める啓発イベントを開催する。イベントを通じてごみが海に流出するリスクを認識し、流出抑制の重要性を啓発、海洋ごみ問題への意識を高めると同時に、本取組の広域展開による海の生物多様性の保全につなげる。

●生駒市・対馬市（共同申請）

背景が異なる生駒市と対馬市が連携し、海洋プラスチックごみの削減と環境教育/キャリア教育の2つの軸で授業パッケージを作成・実施する。パッケージは対馬市で回収された海岸漂着物とアップサイクル品を活用し、大学の協力を得て、五感で学べる授業とする。双方の自治体の学校間交流と、海洋ごみ問題に対する当事者意識の醸成と行動変容を促す。

●静岡市

市内小中学校を対象に、プラモデルを題材とした海洋プラスチックごみ問題を学ぶモデル授業を実施する。児童・生徒らによる清掃活動や、廃PETがプラモデルに再生される過程を学び、漂着したごみのリサイクルがいかに困難かについて理解を深め、海洋プラスチックごみを生み出さない意識を養う。取組の様子は他地域の学校でも活用できる教育プログラムの素案へ活用し、全国の小中学校へも発信する。

●大台町

清流日本一で知られる宮川の水質を維持するため、流域の町内外の関係者等に啓発を行いながら、ダム湖のごみを回収するプラスチックフィッシング大会を実施し、収集したプラごみのアップサイクル事業を行う。産官学の多様なステークホルダーが、それぞれの役割を果たしながら積極的に関わる仕組みを構築し、事業化を通じて取組の継続性を確保することを目指す。

●今治市

自然共生サイトに認定された織田ヶ浜をフィールドに、海洋ごみ問題対策として海岸清掃等活動の可視化による活動促進、「拾い箱」の設置等を実施する。さらに希少動植物の保護やデジタル通貨の導入実証等の取組と併せ、海洋ごみ問題を含む地域課題の克服に向けた多面的な普及啓発を実施し、行政・企業・地域団体等との連携を促す仕組みの創出を図る。

●兵庫県

海洋ごみの現状と対策に関する授業と、得られた知識等を踏まえたリサイクル食品トレーのデザインを考案するセミナーを実施する。考案したデザインはスーパーで提供される食品トレーに掲載、さらに回収したトレーは店頭回収を通じた水平リサイクルを行う。海洋ごみの発生抑制に向けた普及啓発の実施とともに、地域内での資源循環の実現や他自治体への横展開を図る。

●度会町

児童・生徒から家庭へ資源循環の考え方の普及を狙い、「資源ごみ分別マイスター養成講座」や「河川清掃」を実施する。取組に賛同・実践する自治会や老人会、スポーツクラブ、商工会等様々な団体・事業者を「宣言の店」として登録・情報発信を行い、児童・生徒のみならず全町規模の取組へと拡大・発展させ、持続可能な地域づくりやプラスチック削減を推進しつつ、流域自治体や企業・団体等との連携を促進する。

令和６年度ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業実施自治体

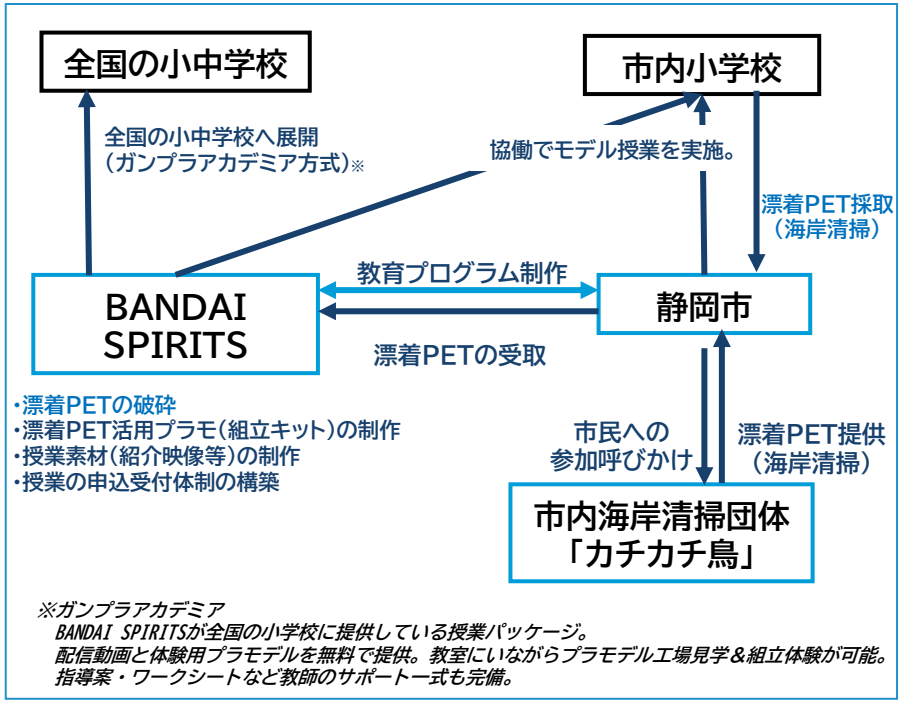
自治体名	連携先企業	概要
静岡県 静岡市	株式会社BANDAI SPIRITS 市内海岸清掃団体（市民団体）	市内小中学校を対象に、プラモデルを題材とした海洋プラスチックごみ問題を学ぶモデル授業を実施する。児童・生徒らによる清掃活動や、廃PETがプラモデルに再生される過程を学び、漂着したごみのリサイクルがいかに困難かについて理解を深め、海洋プラスチックごみを生み出さない意識を養う。取組の様子は他地域の学校でも活用できる教育プログラムの素案へ活用し、全国の小中学校へも発信する。
三重県 大台町	IXホールディングス株式会社 株式会社Verde大台ツーリズム 株式会社REMARE	清流日本一で知られる宮川の水質を維持するため、流域の町内外の関係者等に啓発を行いながら、ダム湖のごみを回収するプラスチックフィッシング大会を実施し、収集したプラごみのアップサイクル事業を行う。産官学の多様なステークホルダーが、それぞれの役割を果たしながら積極的に関わる仕組みを構築し、事業化を通じて取組の継続性を確保することを目指す。
三重県 度会町	度会小学校、度会町商工会、度会中学校、伊勢農業協同組合度会支店、内城田郵便局他３局、いせしま森林組合、グッディ度会店、ウエルシア度会葛原店	児童・生徒から家庭へ資源循環の考え方の普及を狙い、「資源ごみ分別マイスター養成講座」や「河川清掃」を実施する。取組に賛同・実践する自治会や老人会、スポーツクラブ、商工会等様々な団体・事業者を「宣言の店」として登録・情報発信を行い、児童・生徒のみならず全町規模の取組へと拡大・発展させ、持続可能な地域づくりとプラスチック削減を推進する。さらに、町外への情報発信等を通じて、流域自治体や企業、団体との連携を促進する。
奈良県生駒市 長崎県対馬市 （共同申請）	株式会社リングスター 奈良教育大学ESD・SDGsセンター 立教大学ESD研究所 奈良北高等学校	背景が異なる生駒市と対馬市（海岸の有無など）が連携し、海洋プラスチックごみの削減と環境教育/キャリア教育の2つの軸で授業パッケージを作成・実施する。パッケージは対馬市で回収された海岸漂着物とアップサイクル品を活用し、大学の協力を得て、五感で学べる授業とする。双方の自治体の児童・生徒に対して、学校間交流とともにパッケージを実践し、海洋ごみ問題に対する当事者意識の醸成と行動変容を促す。作成したパッケージは他の自治体への展開も目指す。
兵庫県	小野市 株式会社エフピコ 小野市内小売企業（スーパー）	海洋ごみの現状と対策に関する授業と、得られた知識等を踏まえたリサイクル食品トレーのデザインを考案するセミナーを実施する。考案したデザインはスーパーで提供される食品トレーに掲載、さらに回収したトレーは店頭回収を通じた水平リサイクルを行う。本事業により海洋ごみの発生抑制に向けた普及啓発の実施とともに、地域内での資源循環の実現や他自治体への横展開を図る。
愛媛県 今治市	今治商工会議所、東芝ライテック株式会社 今治事業所、株式会社渡辺建設、第一環境企業有限会社、四国ガス株式会社、ＦＭラジオバリバリ、南海放送株式会社、越智今治農業協同組合	自然共生サイトに認定された織田ヶ浜をフィールドに、海洋ごみ問題対策として海岸清掃等活動の可視化による活動促進、「拾い箱」の設置等を実施する。さらに希少動植物の保護やデジタル通貨の導入実証等の取組と併せ、海洋ごみ問題を含む地域課題の克服に向けた多面的な普及啓発を実施する。本事業により行政・企業・地域団体等との連携を促す仕組みの創出を図る。
佐賀県 唐津市	一般社団法人ふくおかFUN、佐賀県立唐津西高等学校、丸紅株式会社、ウォータースタンド株式会社、一般社団法人GBPラボラトリーズ、佐賀県脱炭素社会推進課、佐賀玄海漁業協同組合	ダイバーや漁業者と協働して海洋ごみの回収と「アマモ」の種苗投入を行うイベントや街中の清掃活動等、海洋ごみ問題や海洋生物への影響への理解を深める啓発イベントを開催する。イベントを通じてごみが海に流出するリスクを認識し、流出抑制の重要性を啓発、海洋ごみ問題への意識を高めると同時に、本取組の広域展開による海の生物多様性の保全につなげる。

静岡市 × 株式会社BANDAI SPIRITS、市内海岸清掃団体「カチカチ鳥」

取組の目的

■対象　全国の小学生

■目的　静岡市の地場産業であるプラモデルを題材に、漂着PETボトルをリサイクルしたプラモデルの組立授業（教育プログラム）を制作する。この授業を様々な地域に展開していくことで、全国で海洋プラスチックごみを生み出さない意識付けを図るとともに、海岸清掃等の実践行動を促す。



取組の概要

■普及啓発　市内小学校を対象に、海洋プラスチックごみをテーマとしたモデル授業をBANDAI SPIRITSと静岡市で協働実施。

■教材制作　モデル授業の実施結果や教育現場の意見を踏まえ、全国の小学校に授業で活用してもらうための動画教材・指導案を制作。今後、希望する小学校に教材とプラモデルを配付していく。

成果と課題、今後の展開

■成果　①学習効果・実用性の高い教育プログラムの制作
②教育プログラムを持続的に提供する体制の構築

■課題　全国の小学校に向けた教育プログラムの周知

■今後の展開　全国の小学校へ呼びかけ、活用実績を増やしていく。

静岡市 × 株式会社BANDAI SPIRITS、市内海岸清掃団体「カチカチ鳥」

取組のポイント

■動機付け　海洋プラスチックごみをこれ以上生み出さないという目標を関係者間で共有している。
連携企業については、ブランドイメージの向上や新規需要（プラモデルに興味を持つ児童）の創出が期待できる。
市民団体については、活動の周知や参加者獲得が期待できるとともに、拾ったごみが活用されることで活動の継続意欲につながることが期待できる。

■事業性　小学校の総合学習「SDGs」の単元など、学習指導要領に沿った内容とすることで広く活用が期待できる。
長い活動実績のある「ガンプラアカデミア」のノウハウを活用することで、持続可能な教育プログラムの提供を行うことができる。

■横展開　海あり県だけでなく内陸県の学校でも授業が実施できるような授業構成とすることで、全国に横展開を図る。

効果測定

■方法　授業の受講校数

■結果　令和6年度：モデル校3校

- 受講した3校延べ10名の教員へのアンケート結果で、
  「海洋プラのプラモデル組立が児童の印象に“強く残った（※）”」と回答した教員の割合100%
  「海洋プラごみの授業でプラモデルの組立は“非常に効果的（※）”」と回答した教員の割合90%
  （※　10点満点中8点以上）

今後の取組イメージ

■教材の完成　標準活用例（指導案）や動画教材の完成。教育委員会の協力のもとアレンジ例を制作。

■サービス提供体制の構築　年間受入件数の検討、申込受付インターネットサイトの構築

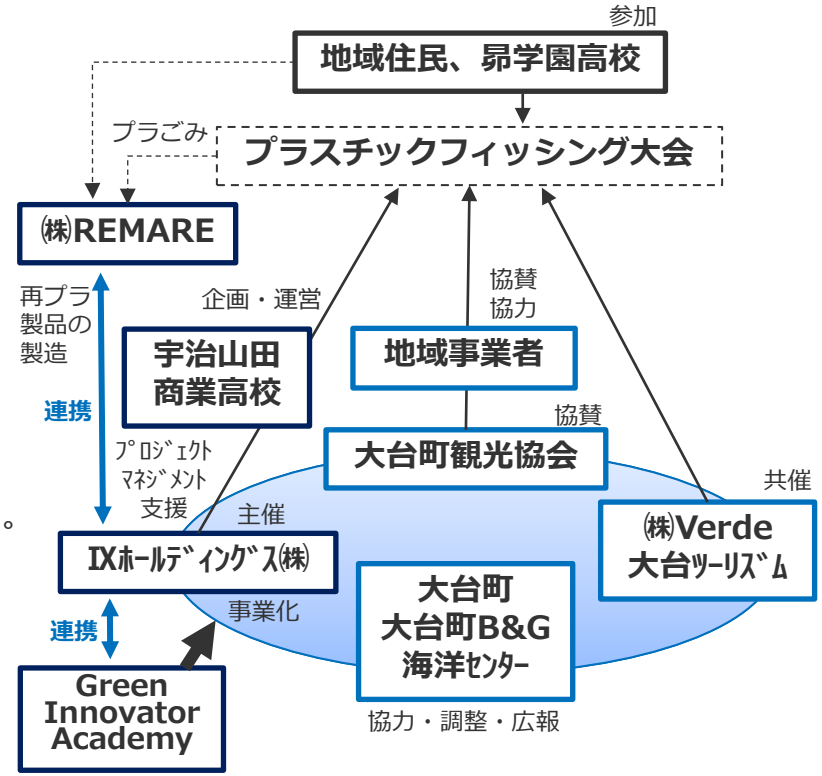
■サービスの周知（情報発信）　全国の小学校にサービスを知ってもらうための取組

大台町× IXホールディングス(株)、(株)Verde大台ツーリズム、大台町B&G海洋センター　他

取組の目的

■**対象**　宇治山田商業高校、昂学園高校、県内高校ボート部、宮川ボートクラブ
宮川パドルスポーツ利用者、地域住民、その他関係者

■**目的**　ゲーム感覚で水上のごみ拾いを楽しめるプラスチックフィッシング大会を通じて、若い世代を中心に海洋ごみ問題や清流宮川への関心を高め、宮川流域圏全体で清流を守っていく機運を醸成する。



取組の概要

■**清掃活動**　三瀬谷ダム湖にてプラスチックフィッシング大会を開催。カヌー・SUPに乗り、ごみ拾いを実施。県内高校生を中心に総勢30名が参加。

■**普及啓発**　昂学園高校の生徒がプラスチックフィッシング大会で集めたごみでアート作品を製作。完成した作品を大台町観光協会に展示。
作品・展示の模様を三重テレビ放送による芸人とコラボした「ゴミ旅アート」にて放送。

■**リサイクル**　プラスチックフィッシング大会で回収したごみや町内小中学校から回収したペットボトルキャップを材料に宇治山田商業高校の生徒がワークショップで利用するキーホルダーを製作。

成果と課題、今後の展開

■**成果**　SUP、カヌーに初めて乗る方も楽しんで実施できた。回収して終わりではなく、ごみは洗浄、分別後、高校生らがアート作品の製作、町内に展示した。一連の取組は各方面のメディアを活用して普及啓発を行った。

■**課題**　水上のごみは回収することはできたが、抜本的な発生源の特定には至っていない。発生原因を探ることが課題。地域住民やボランティアの参加を促進し、意識を高めることが課題。

■**今後の展開**　プラスチックフィッシング大会の継続。近隣自治体と連携し、ごみ発生の抜本的な問題解消に努める。

取組のポイント（大台町）

取組のポイント

■**動機付け**　宮川は清流日本一に何度も選ばれた実績があるが、令和６年度は３年ぶりに清流日本一に返り咲いた。
今後も清流日本一であり続けるために、流域の皆が清流宮川の価値を認識すること。

■**事業性**　回収したプラスチックごみは、アップサイクル事業として、再プラ製品の製造・販売を計画中。

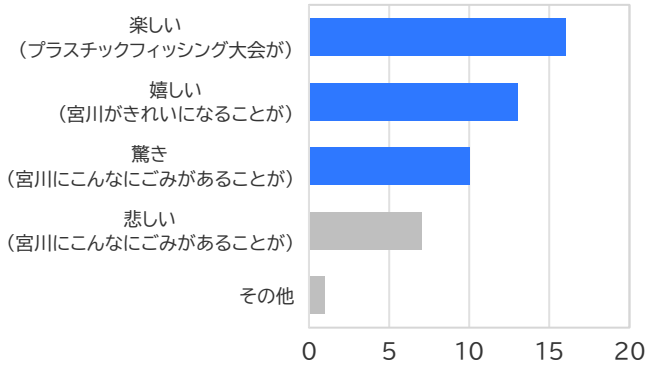
■**横展開**　LBOV採択自治体の度会町と宮川流域の他自治体を巻き込み、河川上流域から下流域への連携を検討。

効果測定

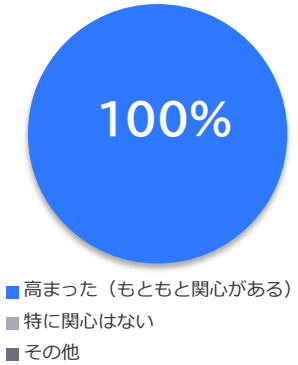
■**方法**　参加者へのアンケート調査を実施。
回答者は21名（高校生/大学生15人、社会人6人）

■**結果**　総合評価は平均4.95（5点満点）
感想としては楽しい、嬉しいとの回答が多く、
怒りの気持ちと回答した人は0人であった。
海洋ごみへの関心は回答者全員が高まったと回答。
回収したごみの量は67.8kg

Q. プラスチックフィッシングに参加してどう思いましたか？（複数回答可）



Q. ダムでピックアップできなかったごみは海まで流れていく可能性があります。海洋ごみへの関心は高まりましたか？



今後の取組イメージ

■**事業の継続**　次年度以降もプラスチックフィッシング大会を開催し、清流日本一の宮川を守り、
宮川は守るべき価値のある存在であることを地域に根付かせていく。
回収したプラスチックごみを原料にアップサイクル品を製造し、道の駅等で販売する。清流宮川や宮川下流に位置する伊勢神宮といった地域が誇るブランド・観光資源とのタイアップによる付加価値の創出に向けて検討する。

■**参加者層の拡大**　今年度の参加者は高校生やSUPの経験者など、普段から河川のごみの現状を知っている人が中心であった。
次年度以降は町内外へも周知し、参加者層の拡大を図る。

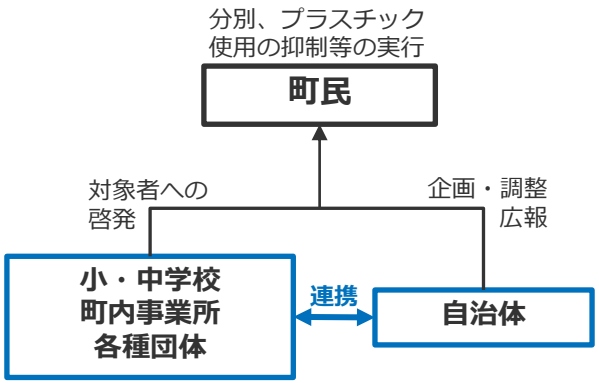
■**ポイ捨て抑制**　大会で回収したごみは日常生活で使われるものも多かったことから、町内のポイ捨てごみの発生抑制に取組む。

度会町 × 度会小・中学校、町内事業所、各種団体

取組の目的

■対象　町民（小・中学生とその保護者、事業所の従業員と来店者、各種団体　等）

■目的　小・中学校、事業所、各種団体など、多方面から分別、リサイクル、海ごみ問題について協力を促す。内陸部である度会町から、海ごみ問題を自分事として意識を持ち、行動を起こすことで、ごみ流出を防ぐことを目的とする。



取組の概要

■普及啓発

① 児童から保護者へ　小学３年生65人を資源ごみ分別マイスター（別紙１）に認定。また４年生60人を対象に、住友電気工業等の協力を得て環境学習（別紙２）を実施。PTAを通じて募集した座談会には14家族33人が参加し、主に分別と海ごみ問題について学び、意識を高めた。

② 生徒から保護者へ　中学校生徒会主催により全校生徒203人が海ごみゼロウィークと絡めた宮川清掃活動を実施。またウォーク×クリーンに参加した生徒及び保護者23人が宮川沿道路（ジョギング大会コース）で美化活動を実施。

③ 宮川流域市町との連携　大台町が実施したプラスチックフィッシングに参加し、参加者への分別指導、内陸部からの海ごみ削減を啓発。

④ その他　SNSでの発信、各種団体と座談会を実施、宣言の店を通じて分別や海ごみ問題等について啓発。

成果と課題、今後の展開

■成果　アンケート結果等（別紙３）から、意識が高くなっていることが分かる。目に見える成果としては、スーパー（宣言の店）にペットボトルやプラ容器などを回収するリサイクルスペースが設置された。

■課題　３・４年生時の気持ちが継続するよう、学校や家庭、地域での仕組みづくりが必要。

■今後の展開　10年後の「二十歳の集い」に、マイスターブースの設置等がされるよう、事業のアップデートと継続。

取組のポイント（度会町）

取組のポイント

■**動機付け**　令和５年７月に「ごみの減量化・再資源化推進」を宣言し、令和９年度の再資源化率（令和10年度集計）30%超えを目指す。
※令和４年度18.6%、令和５年度20.6%（LBOV採択年度）

■**事業性**　児童・生徒への教育の充実と保護者への波及、また事業所や団体を通じ町民へ推進するにより、再資源化率の向上及び内陸部から流出される海ごみ削減が期待される。

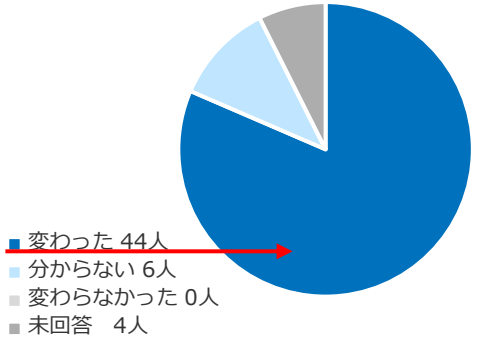
■**横展開**　小・中学校や事業所との連携については、手作り要素の強い事業であるため、他自治体への横展開が期待される。

効果測定

■**方法**　小学生保護者へのアンケート実施

■**結果**　児童らが自宅で分別を推進したことで、ごみの分別、海ごみ問題、リサイクルなど、意識に変化があったとの回答が多数あった。特に海ごみ問題については、児童と保護者が一緒に動画を見て、宿題として感想を提出するなどしたことから、強く印象に残っている様子が伺えた。

お子さんが資源ごみ分別マイスターとなって、分別やごみについての意識が変わりましたか？



今後の取組イメージ

■**マイスター支援事業**
５・６年生時においても継続的な教育がされるよう学校へ働きかけを行う。

■**宣言の店支援事業**
宣言の店から多世代、他業種へ推進されるよう、イベント等への人材派遣、また啓発物品の提供を行い、自主的な取り組みがされるよう働きかけを行う。

■**近隣市町との連携**
宮川流域地域と伊勢湾沿岸地域とが連携し、海ごみ問題へ取り組む地域づくりを推進する。

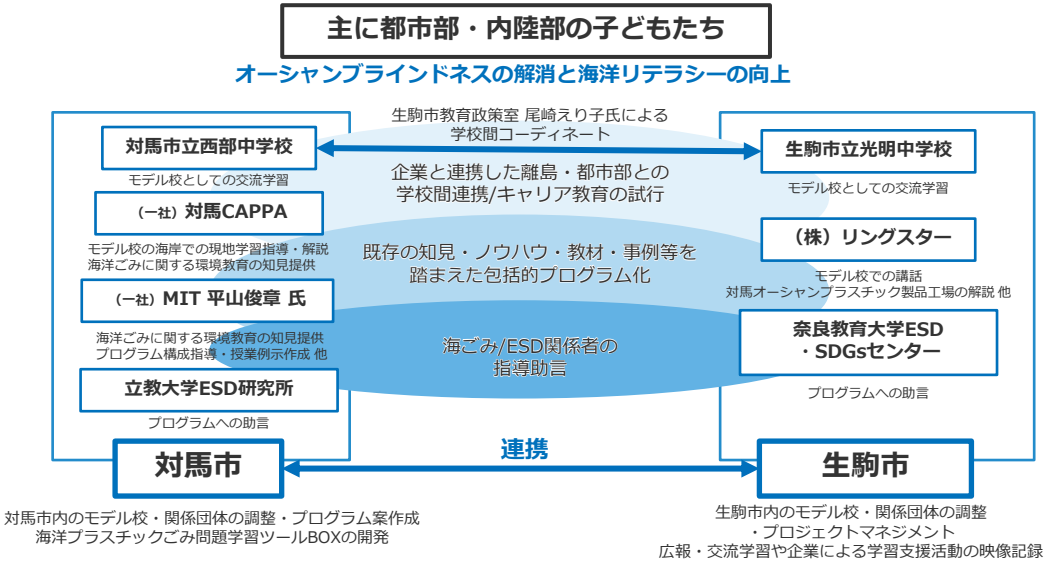
左）大台町プラスチックフィッシング、右）中学生・保護者ウォーク×クリーンイベントは心の距離もグッと近づく！

生駒市・対馬市×(株)リングスター、奈良教育大学ESD・SDGsセンター、立教大学ESD研究所他

取組の目的

■**対象**　**主に都市部・内陸部の子どもたち**

■**目的**　都市部・内陸部における海洋ごみに関するオーシャンブラインドネスの解消と海洋リテラシーの向上。



取組の概要

■**普及啓発**　SDGs未来都市である離島と内陸自治体が連携した海洋ごみ削減につながるESDプログラムや教材を開発・普及。

成果と課題、今後の展開

■**成果**　ESDプログラムは都市部・内陸部の子どもたちのオーシャンブラインドネスを解消することを目指し、以下のコンセプトで開発した。
①対馬で蓄積された海洋ごみに関する環境教育・ESDの知見・ノウハウを見える化
②都市・内陸部でも現場に近い感覚で学習できる工夫
一部プログラムの試行を通じ、海洋ごみの根本的解決において離島/都市・内陸部の交流学習は極めて有効であることが分かった。

■**課題**　企業や他校との交流学習におけるコーディネーターと予算の確保、本プログラムの有効性の検証と水平展開に向けた普及方法の検討等。

■**今後の展開**　令和7年度～８年度、生駒市の小中高に対してプログラムを提示し、モデル校で試行。併せて、上記課題を検討。令和９年度以降、全国他の都市・内陸部へ水平展開。

プログラム教材の一例（現場での体験学習のお話）

リングスター社製「対馬オーシャンプラスチックボックス」を用いた海洋プラごみ問題学習ツールBOX

取組のポイント（生駒市・対馬市）

取組のポイント

■動機付け　生駒市、対馬市両市の橋渡し役となり、海洋プラスチックごみ問題に取り組む企業「株式会社リングスター」の存在。プラスチックの製造事業者は離島には存在せず、都市部においてメッセンジャーとしての役割を発揮している。事実としてプラスチックが海を汚染しているが、人類の繁栄と安心安全な暮らしを築いてきたプラスチックが決して悪者ではないという問題意識をもとに、問題解決に向けてプラスチックを「正しく選ぶ、正しく捨てる、正しく向き合う」ことで、人の幸せで便利な暮らしも、海の美しさも両立する世界を実現することをビジョンとして共有。

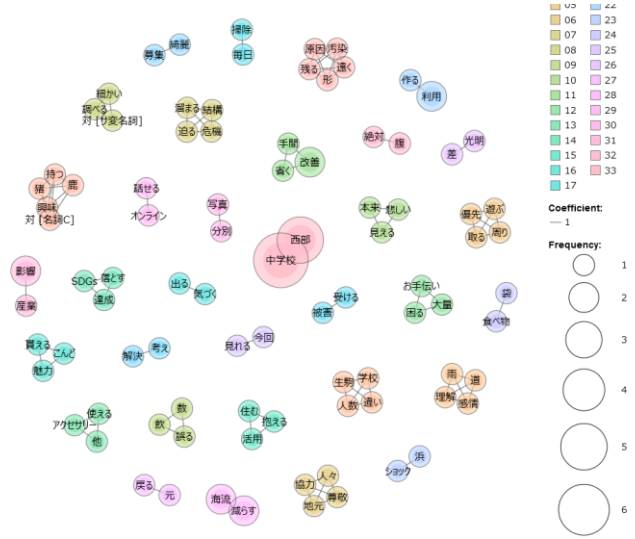
■事業性　「海洋プラスチックごみ問題学習ツールBOX」の販売を検討。

■横展開　多くの内陸自治体が内陸であっても海洋ごみ問題の普及啓発に取り組む中、対馬という具体的な国内フィールドの事例を通じ、自分事化をさらに促すことが可能と考え、横展開の潜在的ニーズは高いものと思料。

効果測定

■方法　令和６年10月にオンラインで行われた対馬市立西部中学校の生徒の学習成果発表に対する、生駒市立光明中学校の生徒の意識変化を計量テキスト分析。

■結果　「どれだけ海が汚れているか目で見れて環境について考えるきっかけになった」「海外から流れてきたごみがあると知ってとても腹立ったし、だからこそ自分も絶対にごみを捨てないようにしたい」「海なし県だからこそもっとごみのことに気をつけないと思う」等、オーシャンブラインドネスの解消と海洋リテラシー向上には異なる環境で暮らし学ぶ同世代の交流学習は極めて有効。



交流学習後の生駒市立光明中学校の生徒意識の共起ネットワーク図
（n=72、121文、2,487抽出語）
KH Coderを用いて作図

今後の取組イメージ

■生駒市でのESDプログラムの試行
令和7年度～８年度、生駒市の小中高に対してプログラムを提示し、モデル校で試行。併せて、コーディネーター・予算・実施体制・普及方法等の取組み課題を検討。

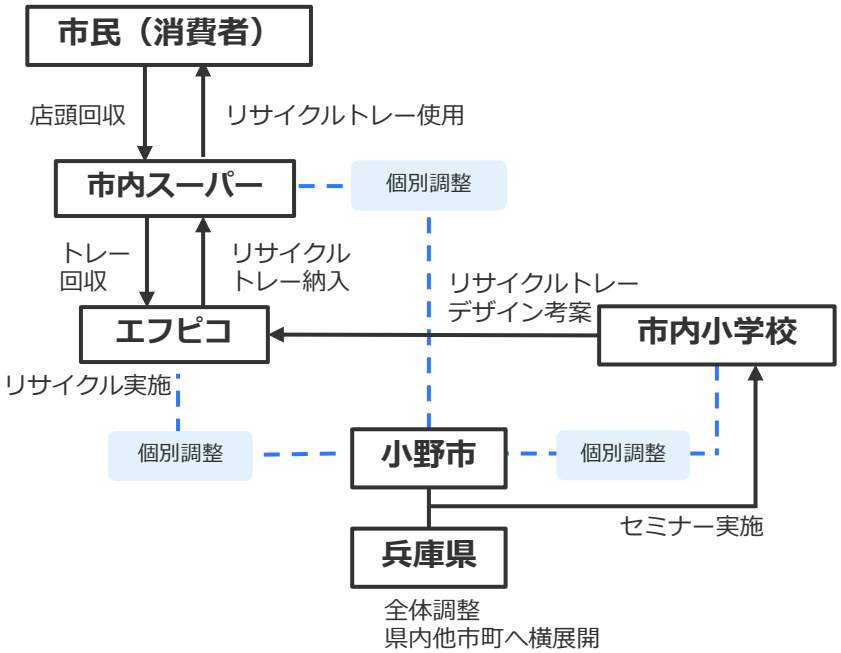
■ESDプログラムの全国展開
令和９年度以降、全国の都市・内陸部へ水平展開。

兵庫県 ×小野市、株式会社エフピコ、小野市内小売企業（スーパー）

取組の目的

■**対象**　小野市民（消費者、小学生）

■**目的**　兵庫県ではプラスチックの水平リサイクルの観点から（株）エフピコと普及啓発等の取組を進めている。本事業では小野市内にて、小学生が考案した啓発デザインを施した食品トレーを製造、小売店で利用・回収し、リサイクルを市内選別工場等で実施することで、食品トレーの域内循環を行う。本事業をモデルケースとして県内市町へ横展開を図る。脱炭素への貢献も留意しつつ、食品トレーにとどまらず、プラスチックをはじめとするあらゆる廃棄物を資源として循環する意識を高め、海洋ごみの発生抑制へとつなげる。



取組の概要

■**普及啓発**　市内小学校に通う児童に海洋ごみの現状と対策に係るセミナーを行う。セミナーを通じて得た知識をもとに、児童が海洋ごみ発生抑制に資するリサイクルトレーの啓発デザインを考案。

■**リサイクル**　市内スーパーの店頭で回収された食品トレーを再度食品トレーとしてリサイクルし、スーパーへ再度納入する。
リサイクルトレーには上記の啓発デザインを施す。

■**発生抑制**　上記の取組のPRや横展開を図ることで、市民に対して脱炭素にも寄与する資源循環の推進、海洋ごみ発生抑制に係る意識の向上を図る。

成果と課題、今後の展開

■**成果**　店頭回収によるトレーの回収量が前年同月比で増加
店頭回収に協力しようと考える市民割合の増加

■**課題**　トレーの裏側にデザインを印刷するため、強力な周知が必要

■**今後の展開**　県内他地域における取組実施
市内小学生、高校生に向けた環境学習等を実施

取組のポイント（兵庫県）

取組のポイント

■**動機付け**　令和４年度からプラスチック資源循環コンソーシアムを立ち上げ、市町やリサイクラー、観光やスポーツ等の異分野業種と連携してプラスチック資源循環促進方策の具体化に取り組んでいる。

■**事業性**　トレーデザインを広告媒体としても活用する等、本活動の趣旨に賛同する企業や協力者の獲得を検討。

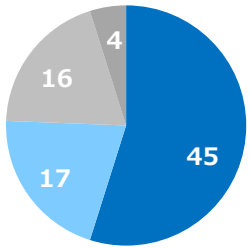
■**横展開**　効率的かつ効果的な県民意識啓発事例として県内他市町での地域の特色応じた横展開を想定。

効果測定

■**方法**　店頭回収量によるトレー回収量を計測。リサイクルによるCO_2排出量の削減量を推定。
加えてスーパー店頭又はweb等においてアンケート調査を実施。

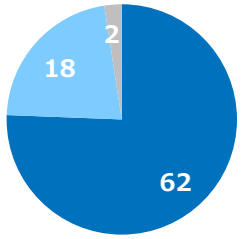
■**結果**　トレーの回収量が４％増加※
リサイクルにより48.4kgのCO_2排出量の削減効果※
店頭回収に協力しようと考える市民の割合の増加（+29%）
※11月～12月　２店舗合計、前年同期間比

これまでトレーを店頭回収に出していましたか



■全て出していた
■たまに出していた
■ほとんど出したことがない

今回を機にトレーを店頭回収に出そうと思いますか



■出そうと思う（以前から出していた）
■出そうと思う（以前はほとんど出していなかった）
■出そうと思わない

今後の取組イメージ

■**県内他地域での展開**　今回の取組を海ごみ発生抑制対策啓発、資源循環の優良取組事例として県内他市町での実施に向け、市町へ展開
デザイントレー作成に係る費用負担のありかた等の検討

■**市内での環境学習**　市内小学生、高校生を対象とした海洋ごみ発生抑制等をテーマとした環境学習等の実施

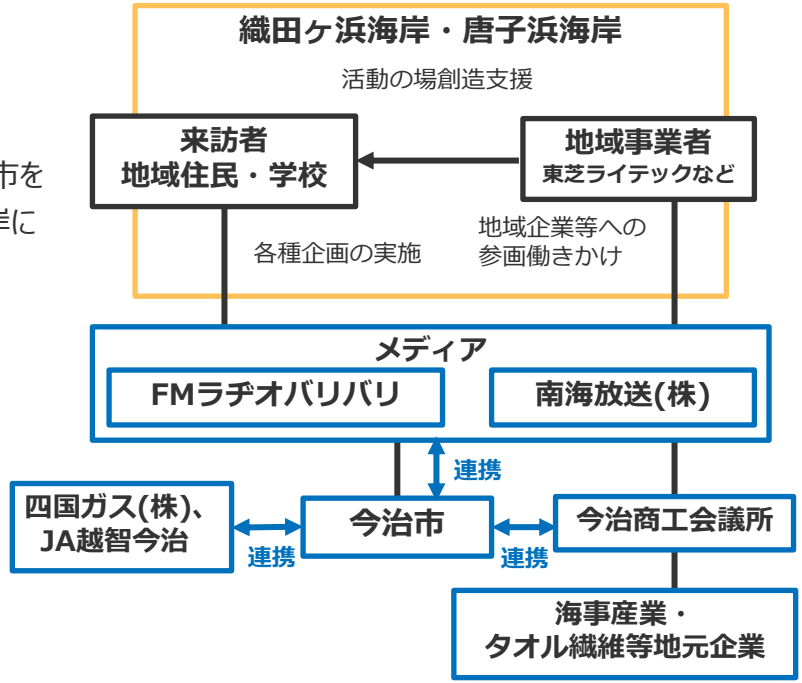
■**プラスチックごみの散乱防止対策実証事業**　イベント時のプラスチックごみ散乱防止に向けた回収・リサイクル実証事業の実施

今治市 ×今治商工会議所、東芝ライテック(株)、(株)渡辺建設、第一環境企業(有)、四国ガス(株)、FMラヂオバリバリ、南海放送(株)、越智今治農業協同組合

取組の目的

■対象 市内ボランティア団体、地域住民、市内企業・団体、児童・生徒、学生

■目的 令和５年度に実施した事業の湊･大新田アダプト･プログラムの横展開として、今治市を代表する海岸である織田ケ浜海岸(R5環境省自然共生サイト認定）、唐子浜海岸に落とし込み、下記の事業により海洋ごみ等問題を考える市民意識の向上を図る



取組の概要

■清掃活動・発生抑制

活動の連携
- アダプト・プログラムの横展開（イベント開催）
- 清掃活動団体等の交流（清掃活動団体の横断幕リレー）
- 川ごみの調査と清掃活動（発生抑制）

■普及啓発

活動の見える化と海洋ごみ問題の興味関心への想起
- 浜の診断書作成による海岸の可視化
- SDGsカードゲーム「CHANGE FOR THE BLUE」の実施
- 漂着ごみ専用ごみ箱（ありがとうごみ箱）の設置
- スマホアプリによる活動の共有

■その他

自然保護
- 海岸の希少種の保護活動（市内小学校が活動中）

その他
- デジタル地域通貨・地域ポイント導入実証

成果と課題、今後の展開

■成果 海洋環境に関する様々な活動主体等との活動の組み合わせにより、新たな参加者層を獲得。
カードゲームなどによる海洋環境問題への興味関心の想起。

■課題 企業の参加誘導に向けた取組が必要。地域と企業をどのようにつなげていくか？

■今後の展開 浜の診断書の見える化による支援体制の構築。
商工会議所の環境アクションプランを核とした企業等の参加の促進と連携

取組のポイント（今治市）

取組のポイント

■**事業性**　地域や企業等が連携・協働することで海岸清掃、環境保全活動等のためのコミュニティが創生され、
人的資源のみならず活動資金も含めた資源が確保されることとなり、活動の持続可能性確保につながる。

■**横展開**　市民主体のアダプト・プログラムの取組を地域や企業の支援を得つつ、
将来を担う子どもたちや若い世代が主体的に活動できる場を創造し、行政、企業・メディアが連携し一般の市民に広げる。

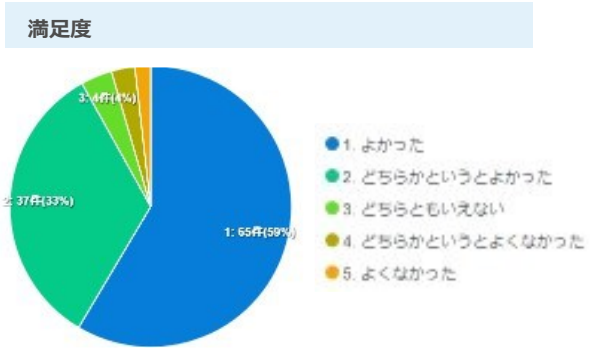
効果測定

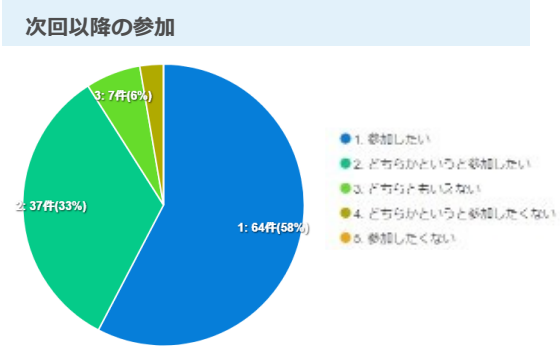
■**方法**　イベント参加者数、参加者アンケートの実施

■**結果**　幅広い年齢層の方が参加された。企業・団体からの参加、友人知人同士での参加が多くみられた。
イベントの内容は90%以上が満足であると回答であった。

海ごみ拾い織田が浜cup＆ありがとうごみ箱お披露目式
- **日時　令和６年９月29日（日）午前10～**
- **場所　今治市織田ケ浜海岸**
- **参加　321人**
- **内容　チームによるごみ拾い競技、拾い箱のお披露目、参加者へデジタル地域通貨（バリコイン）配布**
- **アンケート調査　回答者数108人**

※ビーチクリーンイベントとしては市内最大規模





今後の取組イメージ

■**清掃活動**
- アダプト・プログラムの横展開として、その地域（海岸）の特性に合わせたプランニングでのイベントの実施

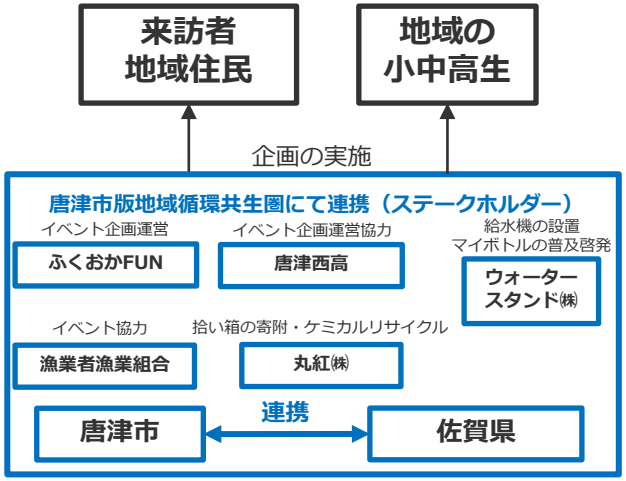
■**啓発事業**
- 海洋環境問題の興味関心の想起として、SDGsカードゲーム「CHANGE FOR THE BLUE」を学校教育だけではなく、企業研修や社会教育の一環として推進していく。
- 浜の診断書による可視化と支援体制の構築。→企業や支援団体等の支援のマッチング←商工会議所等との連携

唐津市　×（一社）ふくおかFUN、漁業者、唐津西高、丸紅㈱、ウォータースタンド㈱

取組の目的

■**対象**　市民、実施地域の児童・学生など

■**目的**　ビーチクリーンや海中ごみの収集加え海草をはじめとした種苗の投入などのイベントを通じて、市民や小中高校生による海洋ごみ問題やごみが与える生物多様性への影響について考える機会を創出する。また、「（仮称）世界海洋プラスチックプランニングセンター」（令和８年度開業予定）に向けて市内の海洋ごみに対する自発性や当事者意識の醸成を促進させる。



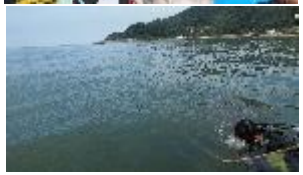
取組の概要

■**ごみの回収**
- **ダイバー・漁業者による海中ごみの収集を行う。**
- 既存の海岸漂着物専用ごみ箱「拾い箱」の活用やビーチクリーン及び街中での清掃活動イベントの開催

■**普及啓発**
- ダイバー及び漁業者による海中ごみの収集に併せて「アマモ」の種苗の投入など行い海域における生物多様性の保全に資するイベントを開催した。
- 海中の様子を配信し、海洋ごみが生態系へ与える影響を可視化し、ごみに対する当事者意識醸成を促す。

■**発生抑制**
- イベント会場における給水機を設置し、マイボトル持参を促す。
- 上記イベントを通じて、ごみの発生抑制の意識醸成を図る。

■**リサイクル**　イベントや「拾い箱」にて集まった海洋プラスチックのリサイクル



成果と課題、今後の展開

■**成果**　海岸漂着ごみ及び海中ごみ、街中のごみ約150袋分回収した

イベント参加後に具体的に海洋保全の取組みを行う企業などを応援し始めた等、行動変容に結びついた回答がみられた

■**課題**　より多くの人を巻き込めるよう唐津市内各地でのイベント開催を目指す

■**今後の展開**　佐賀県及び多数のステークホルダーによる唐津市各地における清掃イベントを開催

連携増進活動実施計画の策定、他地域との連携による里海づくりへの挑戦

取組のポイント（唐津市）

取組のポイント

■動機付け　本市は「唐津市版地域循環共生圏」の実現に向けて、ブルーカーボン、ネイチャーポジティブ、海洋プラスチック、資源循環、再生可能エネルギー、の5本のテーマを掲げて多様なステークホルダーとプロジェクトを進めている。
今回の取組は「唐津の恵まれた海への愛着」を深め、ごみの発生抑制を促すことにより、海洋生物多様性の保全やネイチャーポジティブの実現に寄与する。本市では「（仮称）世界海洋プラスチックプランニングセンター」の開業も予定されており、今回の取組を継続的かつ発展的に推し進めることで、市民の海洋ごみに対する自発性や意識醸成を促進する。

■事業性　市民など参加者の行動変容について、具体的に海洋保全の取組みを行う企業などを応援し始めたと回答した方が多いことから、事業継続にあたり、継続的な参加及び応援について継続性が認められる。

■横展開　今回の取り組みをきっかけに、他地域（壱岐市・佐世保市など）とも連携したことにより、より一層の海洋プラスチック問題の取組や里海づくり、海洋生物多様性の保全、ネイチャーポジティブの実現を図っていく。

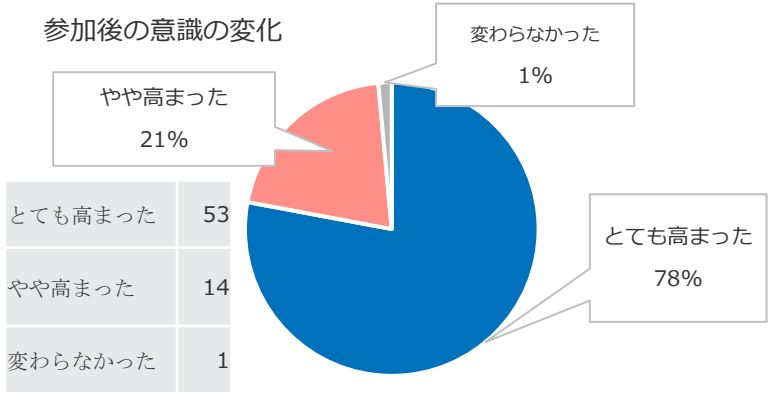
効果測定

■方法　イベント参加者数・アンケート

■結果　イベント参加者（第1回：112人、企業：28人、第2回：58人）

参加者の約99%が今回のイベントを通じて、海ごみ問題や生物多様性問題など、関心が高まったと回答した。また、参加後の行動変容で「海洋保全の取組みを行う企業などを応援し始めた」や「プラスチックごみの削減に取り組み始めた」などの意見が多かった。

参加後の意識の変化



今後の取組イメージ

■清掃イベントの定期的な実施
「（仮称）世界海洋プラスチックプランニングセンター」開業に向けて佐賀県及び多数のステークホルダーによる唐津市各地における清掃イベントを開催（月１回程度を目標）

■ネイチャーポジティブの実現
- 唐津市周辺の海域における生物多様性増進活動促進法による「連携増進活動実施計画」を策定その取組を発信。
- 壱岐市・佐世保市等近隣自治体との連携による里海づくりへの挑戦